

伴走型支援って何だ！

— 孤立時代におけるつながりの支援を考える

【プログラム】

第一部 基調提言

(1) 地域共生社会と伴走型支援

吉田 昌司 氏（厚生労働省社会援護局 生活困窮者自立支援室長）

(2) なぜ伴走型支援が必要なのか

稲月 正 氏（北九州市立大学基盤教育センター教授）

(3) 伴走型支援とは何か

奥田 知志（NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長）

(4) 事例報告

高橋 尚子 氏（京都自立就労サポートセンター理事）

加藤 恵 氏（半田市障がい者相談支援センター長）

(5) 伴走型支援の位置づけ

原田 正樹 氏（日本福祉大学副学長）

参加費無料

定員 120 名

(要申込)

第二部 シンポジウム

「伴走型支援の可能性」

コーディネーター 藤森 克彦 氏（日本福祉大学教授）

シンポジスト 各提言の報告者

第三部 これからの普及、推進協会の設立にむけて

【日時】 2020 年 1 月 13 日(月・祝)

13:00～17:00（開場 12:00）

【会場】 日本福祉大学 名古屋キャンパス 北館 8 階
愛知県名古屋市中区千代田 5-22-35

近隣の有料駐車場は混雑することが多いため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。なお、キャンパス内は全面禁煙です。



【お申し込み方法】 事前に、裏面の受講申込書の内容を F A X などでお知らせください。

厚生労働省委託事業

【主催】 NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク

【後援】 日本福祉大学

【ごあいさつ】

皆さん、伴走型支援をご存知ですか。これまでは「課題解決型」の支援が中心でした。何か困りごとを抱えた相談者と面談し、アセスメントを経て課題解決のためのプランを作成し実行する。これが「課題解決型」の支援です。これは今後も重要で困りごとを放置することはできません。

しかし、実際にはなかなか思い通りに解決しない、専門家が「この人の主訴は・・・」と分析しても課題や困りごとが複雑で本人も整理がつかない、さらに、「孤立」や「孤独」がその人の困難のベースにある、など、「課題解決型」ではうまくいかないケースも少なくありません。また、「解決」という結果を過剰に求められる中で支援員がバーンアウトすることも珍しくありませんでした。

そこで、登場したのが「伴走型支援」です。これは従来の「課題解決型」とは違い「つながること」あるいは「つなげること」を目的とした支援です。課題解決のための手段として「伴走する」のではなく、「伴走」が目的となる支援です。国際調査で日本の孤立率は15%を超えており米国の5倍となっています。孤立の時代における新しい支援論である「伴走型支援」について一緒に学びませんか。

この度厚生労働省は、これからの「地域共生社会」において「支援の両輪」として「課題解決型支援と伴走型支援」を位置付けました（2019年12月地域共生社会推進検討会 最終とりまとめ）。伴走型支援については、2010年以後、厚労省の社会福祉推進事業等を活用しNPO法人ホームレス支援全国ネットワークが研究を重ね「伴走型支援士養成講座」が実施されてきました。すでに1000人以上の認定資格者がいます。今回の、上記の国の方針を受けて「一般社団法人 日本伴走型支援推進協会（仮称）」を発足することとなりました。シンポジウムの中でそのことも報告したいと思います。

今回のシンポジウムは、厚生労働省の委託事業「伴走型支援推進に関する検討会等開催業務の請負契約」によって行われます。また、実施においては日本福祉大学の協力を得ることが出来ました。

皆様のご参加をお待ちしています。



NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク理事長 奥田 知志

【伴走型支援シンポジウム受講申込書】

おふりがな			
お名前		参加人数	名
ご所属			
電話番号		FAX番号	

事前に、受講申込書の内容をFAXなどでお知らせください。

【お問い合わせ・お申し込み先】

NPO法人ホームレス支援全国ネットワーク

〒805-0015 福岡県北九州市八幡東区荒生田2-1-32

TEL 093-651-7557

FAX 093-653-0779